



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

12月号—No.296

2019.11.25

(毎月1回25日発行)



サンアゼリア吹奏楽フェスティバル 第7回ニューイヤーコンサート in 和光 (埼玉県和光市)

●目次／contents

クリスマス&年越し・新春企画特集

公演カレンダー.....2

今月の情報.....6

地域通信／アーツセンター情報

財団からのお知らせ.....11

「市町村長特別セミナー」終了報告／2020・2021年度「公共ホール音楽
活性化事業(おんかつ)」新規登録アーティスト集合研修報告

今月のレポート.....12

石川県金沢市 金沢21世紀美術館
市民美術の日「オープンまるびい 2019」



クリスマス＆年越し・新春企画特集



恒例の「クリスマス＆年越し・新春企画特集」の季節となりました。定番のプログラムからユニークな企画まで、各地の取り組みを一挙にご紹介します。

Ⓔは会場、Ⓔは問い合わせ先です(Ⓔは地域創造助成事業)。

クリスマス企画

●札幌市 12月14日

クリスマスオルガンコンサート

第21代専属オルガニスト、アダム・タバイディによる故郷ハンガリーのクリスマス为主题的オルガン・ソロのほか、札幌旭丘高校と札幌山の手高校合唱部との共演でパイプオルガンと合唱の演奏が行われる。21日には、クリスティアン・アルミンク指揮、札幌交響楽団演奏による「Kitaraのクリスマス」も開催。

Ⓔ札幌コンサートホールKitara

Ⓔ札幌市芸術文化財団

Tel. 011-520-2000

●青森県八戸市

12月21日、22日

クリスマスマーケットinマチニワ2019

今年は、はっちの向かいに昨年開館したマチニワでクリスマスマーケットを開催。クリスマスグッズやフードの販売のほか、子どもたちによるステージイベントやフォトスポットなどでにぎわう。また、12月1日～25日の期間中、はっち外壁やマチニワにはイルミネーションや色鮮やかなデコレーションが飾られ、クリスマスを盛り上げる。

Ⓔ八戸ポータルミュージアムはっち、マチニワ Ⓔ八戸ポータル

ミュージアム はっち

Tel. 0178-22-8228



昨年のイルミネーション

●秋田県秋田市 12月21日

アトリオン・クリスマスコンサート パイプオルガンと祝うクリスマス

秋田県ゆかりの4人の女性オルガニストに加え、秋田県オルガン奏者養成講座で特別講師を務めている椎名雄一郎を迎えたコンサート。ホールの象徴でもあるフランス製のパイプオルガンの音色の多様さを活かし、J.ラングレーやA.ギルマンなど、フランスのオルガン音楽作曲家による作品を中心に、クリスマスらしい音色をホールに響かせる。

ⒺⒺアトリオン音楽ホール

Tel. 018-836-7803

●茨城県日立市 12月21日

ヒタチスターライトイルミネーション2019 クリスマスコンサート

日立の冬の風物詩となったイルミネーションのなかで開催するクリスマスコンサート。市制施行80周年とイルミネーション20周

年にあたる今年は、「ヒカリ・咲く・ヒタチ」をテーマにしたイルミネーションと、さまざまなイベントを行う。コンサートでは、公募で集まった「シャイニングスター合唱団」がクリスマスソングなどを披露。

Ⓔ日立シビックセンター新都市広場(イルミネーション会場内)

Ⓔ日立市民科学文化財団

Tel. 0294-24-7711

●さいたま市 12月15日

ブラザノース de クリスマス

クリスマス恒例の家族で楽しむコンサート。0歳児から入場可能な午前の「キッズコンサート」と、3歳児から入場可能な「ファミリーコンサート」を開催。ユニークな編成のアンサンブル「Music Players おかわり団」の演奏に合わせて、手遊びをしたり一緒に歌ったりと、家族みんなでクリスマスソングを楽しめる。

ⒺⒺさいたま市 ブラザノース

Tel. 048-669-0300

●千葉県東金市 12月22日

東金文化会館四季彩コンサート 冬 TO-BUNクリスマスコンサート

公募で結成されたTO-BUNクリスマス合唱団や、クリスマスらしい衣装でダンスも披露するジュニア合唱団など4組の合唱団体

写真

左上:「音楽お届け便」クリスマスコンサート」会場の高松市こども未来館プラネタリウム(香川県高松市)

右上:「やんばるアートフェスティバル」(沖縄県大宜味村ほか/展示作品: 淀川テックニック「やんばるオオゴミウオ」)
©YAMBARU ART FESTIVAL

左下:「初春☆夢を描こう、踊ろう。」(宮崎県都城市)

右下:「オルガンコンサート クリスマスの贈りもの2019」(鳥根県松江市)

が出演するほか、ゲストにプロの外国人声楽家を招くなど、見て楽しめるものから、じっくり聴かせるものまで多彩なグループが出演。1日の練習で気軽に出演できるOne Day合唱団も企画するなど、合唱でホールをクリスマス色に染める。

☎ 東金文化会館
Tel. 0475-55-6211



●東京都立川市
12月21日、22日

立川シアタープロジェクトpresents
子どもとおとながいっしょに楽しむ
舞台vol.4『イーハトーヴ童話集〜
ケンジのネコとモダチに〜』

毎年クリスマスの時期に、名作児童文学を題材とした世代を超えて楽しめる演劇を上演する人気シリーズ。4年目を迎える今年は、初めて日本の児童文学を原作に取り上げる。宮沢賢治が思い描いた、人間と動物がココロを通わせられるフシギな世界「イーハトーヴ」を舞台にしたお話を、生演奏とともにお届けする。
☎ たましんRISURUホール
☎ 立川シアタープロジェクト実行委員会 Tel. 042-595-6347

●東京都三鷹市 12月22日
クリスマスファミリーコンサート
小学生からのクラシック
『動物の謝肉祭』

小学生が音楽を聴いたイメージを絵画やプログラミング動画で表現。それらの作品を、演奏に合わせて舞台上の壁全面に投影する、音楽と映像アートのコラボレーションコンサート。小学生の作品制作は、三鷹市立第一小

学校の授業と連携し実施。ほかにもワークショップ参加者のクリスマスソングなど関連プログラムが用意されている。

☎ 三鷹市芸術文化センター
☎ 三鷹市スポーツと文化財団
Tel. 0422-47-5122

●東京都国分寺 12月21日
国分寺市制施行55周年記念
ミュージカル『クリスマス・キャロル』

C.ディケンズの名作を、現代風にアレンジしたファミリーミュージカル。出演の劇団シアタージャパンは地域社会における文化貢献の一端を担うことを劇団趣旨としており、賛助出演の市民ミュージカル劇団「シアターいずみ」は、同ホール主催でシアタージャパン代表の三浦克也によるミュージカルワークショップをきっかけに発足された。
☎ 国分寺市立いずみホール
Tel. 042-323-1491

●横浜市 12月21日
サルビアクリスマスコンサート
2019

サルビア・アーティストバンク2019登録アーティストが総出演するクリスマスコンサート。4月に行ったガラ・コンサートの好評を受け、今回はさらにパワーアップ。1部では各アーティストが自身の特色を生かした曲目を演奏し、2部ではクリスマスにちなんだ曲を中心に楽器の垣根を超えたコラボレーションや全員での演奏を楽しめる。
☎ 鶴見区民文化センター サルビアホール Tel. 045-511-5711

●川崎市 12月21日
MUZAパイプオルガン クリスマス・コンサート2019 世界のクリスマスを聴く
日本最大級のパイプオルガンによる恒例のコンサート。今年

は「世界のクリスマスを聴く」をテーマにホールオルガニストの大木麻理がハンドベルと初共演する。会場では世界のクリスマス&オルガンのクイズラリーや「オルガンを知る!ミニツアー」(要事前申し込み)も開催。会場販売のワイン・お菓子を開演前・休憩中に楽しめる。

☎ ミューザ川崎シンフォニーホール Tel. 044-520-0200

●静岡県富士市 12月1日
MAUハンドベルリンガーズ
クリスマスコンサート2019

富士市の中学校同窓会を契機に結成された、MAUハンドベルリンガーズによるクリスマス定期コンサート。結成19年目の今年は樽井直美(ヴァイオリン)、三改木多恵子(ピアノ)をゲストに迎え、ハンドベルとのコラボにより『アヴェマリア』『ホワイトクリスマス』などのクリスマスソングが演奏される。
☎ 富士市文化会館ロゼシアター
☎ 田中晴子(MAUハンドベルリンガーズ) Tel. 0545-51-3035



MAUハンドベルリンガーズ

●長野県松本市 12月22日
波多野睦美「クリスマス・キャロル」歌と古楽器でおくる英国のクリスマス

今年はメゾソプラノ・波多野睦美を迎え、「英国のクリスマス」を楽しむプログラムを用意。歌と古楽器による英国バロック音楽のほか、ディケンズの『クリスマス・キャロル』を朗読と歌、ダンス、児童合唱で披露する。波多野自身が構成・台本を担当し、

辻田暁のダンスとともにSK松本ジュニア合唱団が伝統的な『クリスマス・キャロル』を歌う。

☎ 松本市音楽文化ホール
(ザ・ハーモニーホール)
Tel. 0263-47-2004

●名古屋市 12月20日、21日
クリスマスはオルガンだ! 2019

毎年好評を博するパイプオルガンコンサート。毎年さまざまな楽器とのコラボレーションでステージを盛り上げるのが特徴であり、今年はオルガニストの近藤岳とカウンターテナーの中嶋俊晴が共演する。演奏者の手元や足元を大型スクリーンに投影する演出もあり、普段とは違った視点からオルガンの演奏を楽しむことができる。

☎ 愛知県芸術劇場
Tel. 052-971-5609

●愛知県豊田市 12月21日
能楽堂で見る日本の伝統芸能
シリーズ41「悪魔×能×二十五
絃 能魔中三重」

能楽堂に親しんでもらうことを目的として開催するシリーズ企画の第41弾。今回は、能楽の新しい可能性を探索する金春流シテ方の山井綱雄とさまざまなジャンルの音楽を鋭く深く表現する二十五絃の中井智弥とロックアーティストのデーモン閣下が共演。悪魔×二十五絃×能舞という異なるジャンルの融合から生まれる新しい芸能の形に注目。

☎ 豊田市コンサートホール・能楽堂 Tel. 0565-35-8200

●京都市 12月19日
ちょっと素敵な朝からクラシック
メモリー・オブ・クリスマス・タイム!

肩肘張らず気軽にクラシックを楽しんでもらえるよう、平日の午前中に低価格の料金設定で開

催すコンサートシリーズ。毎年クリスマスシーズンのお楽しみになっている本公演では、京都市交響楽団のメンバーによるアンサンブル「京都しんぷおにえった」が定番のクラシック曲やクリスマスソングを、好評のオリジナル編曲で披露する。

図 京都市呉竹文化センター
Tel. 075-603-2463



京都しんぷおにえった

●大阪府高石市 12月22日
クリスマスティータイムコンサート2019

コンサートの前にお茶とケーキを楽しむ人気企画。可動式のホールを活かし、平土間にした客席後方でティータイムを過ごした後、大阪エリアの音楽学校を卒業した演奏家が集まる音楽クラブが、『ジングルベル』やプッチーニ「歌劇『ラ・ボエム』より ムゼッタのワルツ」などクリスマスにちなんだ楽曲を披露する。

図 阿プラたかいし
Tel. 072-267-0018

●奈良県奈良市 12月8日
“なら100”クリスマスコンサート
2019 With Osaka Shion Wind Orchestra

指揮に西村友、吹奏楽にオオサカ・シオン・ウインド・オーケストラを迎え、クリスマスの名曲が披露される。当該施設主催の「ウーヴェルチュールコンサート」の審査で最優秀賞を受賞した中川敬斗がチューバソロで出演する。終演後にはオオサカ・シオン・ウインド・オーケストラのメ

ンバーによる楽器別のクリニックが開催される。

図 100年協会
Tel. 0742-34-0111

●島根県松江市 12月14日
オルガンコンサート
クリスマスの贈りもの2019

ホール専属オルガニストの米山麻美によるクリスマスコンサート。1996年から続いているシリーズで、今年は地元の吹奏楽グループ「ザ・トゥモローガールズ」と共にステージを盛り上げる。イルミネーションイベント「ブラバ光の杜プロジェクト2019」の開催期間中でもある、耳と目でクリスマス気分を満喫できる。

図 松江市総合文化センター
ラバホール Tel. 0852-27-6000

●広島県福山市 12月15日
リーデンローズ・クリスマス・ガラ・コンサート

「リーデンローズ音楽宅配便」で小中学校でのアウトリーチ活動を行ってきた地元アーティストによる毎年恒例のガラ・コンサート。9組13名の登録アーティストが一堂に会し、バラエティに富んだプログラムでクリスマスを祝う。今年はチェリスト加藤文枝をゲストに呼び、コンサートに華を添える。

図 福くやま芸術文化ホールリーデンローズ 図 福くやま芸術文化財団 Tel. 084-928-1810

●香川県高松市 12月14日
サンポートホール高松「音楽お届け便」クリスマスコンサート

こども未来館や市立図書館など他の市立文化施設と連携し、香川県ゆかりのアーティストが音楽を届けるコンサートシリーズ。これまでも七夕などに合わせて演奏会を実施。プラネタリウムに映された満天の星空に囲まれ、星の話を聞きながらフルート

とクラリネットによる生演奏というちょっと珍しく楽しいクリスマスの夜をお届けする。

図 高松市こども未来館
図 高松市文化芸術財団
Tel. 087-825-5010

年越し・新春企画

●群馬県高崎市 1月1日
第30回高崎元旦コンサート

「音楽のある街」の年頭を飾る恒例の群馬交響楽団コンサート。今年から会場を2019年9月にグランドオープンし、群響の新たな拠点となった高崎芸術劇場に移して行われる。今回は19年に退任した群響前音楽監督で高崎芸術劇場特別顧問のマエストロ大友直人が「高崎元旦」に初登場。

図 高崎芸術劇場
Tel. 027-321-7300

●埼玉県川越市 1月5日
2020ニューイヤーガラコンサートin川越

川越市在住者や、同市近隣を中心に活動する声楽家やオペラ歌手などの音楽家が集うガラコンサート。クラシックやオペラなど地域の音楽文化醸成などを目的に2015年にスタートし、小江戸川越の正月の風物詩となっている。ナビゲーターは長年和光市を拠点にオペラ振興に尽力してきたNPO法人オペラ彩理事長の和田タカ子氏。

図 川越市やまぶき会館
Tel. 049-222-4678

●埼玉県和光市 1月19日
サンアゼリア吹奏楽フェスティバル第8回ニューイヤーコンサートin和光

市内の小・中・高等学校の吹奏楽部や、市民吹奏楽団体が一堂に会するフェスティバル。音楽を通して和光市民と繋がりを持

ちたいとの思いで、陸上自衛隊東部方面音楽隊と同館が企画し8回目を迎える。参加した学生が卒業後も市民団体の演奏を続けるなど、幅広い世代が吹奏楽を長く楽しむ交流の場となっている。

図 和光市民文化センター（サンアゼリア） 図 和光市文化振興公社 Tel. 048-468-7774

●埼玉県富士見市 1月25日
キラリふじみ・コンサートシリーズ
ニューイヤーコンサート2020
「時代を先取りした3人の天才が夢見た世界」

トッパンホールの西巻正史氏プロデュースによる恒例のクラシックコンサート。8回目の今年は、タイプの異なる3人のピアニストの競演など、生誕250年に当たるベートーヴェン、モーツァルト、ドビュッシーの3人の天才をさまざまな角度から味わえるオリジナルプログラム。12月に関連プログラムとして、ピアノ学習者を対象とした公開レッスンとレクチャー付きミニコンサートが実施される。

図 富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ 図 キラリ財団
Tel. 049-268-7788

●新潟市 1月4日、5日
オルガン・ニューイヤー2020

冬休み恒例のパイプオルガンを楽しむプログラム。今回は「パイプオルガン見学会」と「思いっきりオルガン演奏体験」の2本立て。見学会(4日)は小学生対象の60分のキッズプログラムと、ミニコンサート付きの90分プログラムの2公演で、どちらも専属オルガニストの山本真希が講師を務める。演奏体験(5日)では、貸し切り状態のホールで自由にパイプオルガンを演奏をできる。

図 市ゆーとびあ新潟市民芸術文化会館 Tel. 025-224-7000

●名古屋市 12月31日

ジルベスター&ニューイヤー
カウントダウンコンサートinあ
つた2019-2020

名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団の団員によりこの日のためだけに編成された「フェアウェルオーケストラ」(指揮:井上京、山本直人)によるカウントダウンコンサート。今回が10回目の開催。コンサートを楽しんだ後は熱田神宮へ初詣に向かうのが恒例になっている。

☎ 熱田文化小劇場
Tel. 052-682-0222

●滋賀県大津市 1月5日

能楽にみる自然 人を越えた「い
のち」の世界～新春特別公演

作品に描かれた自然に注目し、風土の中で育まれた宗教観にふれてもらおうという能・狂言公演シリーズ「能楽にみる自然」。恒例の新春公演では、特別公演と題して「雪」にまつわる演目を取り上げる。演目は金剛流能『雪』(豊嶋晃嗣)、大蔵流狂言『子の日』(茂山茂)、観世流能『葛城 大和舞』(味方玄)。

☎ 大津市伝統芸能会館
Tel. 077-527-5236

●大阪市 12月31日

初心者のための上方伝統芸能
ナイト 大晦日スペシャル

豊かで多彩な上方芸能の中から厳選した演目(能、文楽、落語、女道楽、お座敷遊び)を初心者や外国人でも気軽に楽しめるよう、ハイライト部分を上演する企画。2006年から150回以上行われ、毎年大晦日は特別プログラムとして日と夜を跨いで開催。ハイライト上演のほか、鏡開きや振る舞い酒、お楽しみ抽選会などで新年を祝う。

☎ 山本能楽堂
Tel. 06-6943-9454

●堺市 12月31日

フェニーチェ堺 令和元年ジル
ベスター

2019年10月にグランドオープンをしたフェニーチェ堺。オープン年の締めくくりとして、大晦日に林英哲&英哲風雲の会(和太鼓)、熊谷和徳(タップダンス)、反田恭平(ピアノ)、田村麻子(ソプラノ)、関西フィルハーモニー管弦楽団(指揮:藤岡幸夫)ら各界の注目アーティストが出演する年越しカウントダウンコンサートを開催。

☎ フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール) Tel. 072-228-0440

●兵庫県三田市 1月5日

ニューイヤーガラ・コンサート
2020

三田にゆかりのある演奏家による恒例の新春コンサート。今回はおなじみの三田出身のN響ヴィオラ奏者・中村翔太郎と、ホールのアウトリーチ事業で活躍する「SATONONEレジデンシャル・アーティスト」3組に加え、関西フィルのトロンボーン奏者・風早宏隆もゲスト出演。オーケストラの縁の下での力持ち的なヴィオラとトロンボーンの単独の音を余すところなく楽しめる機会。

☎ 三田市総合文化センター郷の音ホール Tel. 079-559-8100

●和歌山県田辺市 1月12日

ニュー・イヤー・ガラコンサート
2020

日々研鑽を積む若き音楽家の活動・発表の場の提供、また広く市民に紹介することを目的に初めて開催される新春コンサート。第1部「新人コンサート」は公募による紀南地方の若手演奏家が出演。第2部として現在活躍している地元出身の音楽家の演奏会「ガラコンサート」を併せて開催し、才能を刺激し合える場とする。

☎ 紀南文化会館

☎ 田辺市教育委員会 文化振興課 Tel. 0739-26-9943

●山口県防府市 1月10日～13日

第19回防府音楽祭 ほうふ
ニューイヤーコンサート2020

防府市出身のチェリスト・田中雅弘を音楽監督に迎え、2002年に誕生した音楽祭。市内各所での「オープニング街角コンサート」を皮切りに、プロアーティストによる管打楽器特別公開クリニック、太鼓奏者・林英哲らをゲストに迎えた「わくわく夢の響演コンサート」、この日のために結成されたオーケストラ防府音楽祭管弦楽団によるファイナルコンサートなど、さまざまな音楽があふれる4日間。

☎ 防府市地域交流センター アスピラートほか ☎ 防府市文化振興財団 Tel. 0835-26-5151



オープニング街角コンサート(市役所議会議場での演奏)

●広島県呉市 1月19日

2020くれニューイヤーコンサート
～南欧イタリア・スペイン古
(いにしえ)の旅～

広島交響楽団による恒例のニューイヤーコンサート。今回はゲストにクラシックギター界のヒロイン朴葵姫(パク・キュヒ)、指揮に東京国際音楽コンクール指揮部門第2位の横山奏をゲストに迎え、ギターとの共演からおなじみのオーケストラの名曲など華やかな演奏を披露。呉市在住・通学する小学生～高校生100人が無料招待される。

☎ 呉信用金庫ホール(呉市文化ホール) Tel. 0823-25-7878

●宮崎県都城市 1月19日

初春☆夢を描こう、踊ろう。

誰もが気持ちを新たに、夢や目標をもつ1月に、コミュニケーションを図れるワークショップを通して、その夢を表現し、分かちあおうという正月イベント。新年の十二支・子(ねずみ)にちなんだテーマ「夢に舵(かじ)ろう!」に沿って、書初めや点字名刺作成、美術家の指導によるねずみの立体造形など、障がいのある人もない人も参加しやすいワークショップを、地域団体等の協力を得て実施する。

☎ 都城市総合文化ホールMJ ☎ 都城市文化振興財団
Tel. 0986-23-7140

●沖縄県大宜味村ほか

12月14日～1月13日

やんばるアートフェスティバル
2019-2020 山原黄金之杜(や
んばるくがにぬむい)

沖縄の原風景を撮り続けてきた写真家・アートディレクターの仲程長治を総合ディレクターに迎え、2017年にスタートした沖縄県北部「やんばる」地域では初めての大規模芸術祭。自然とヤンバルクイナなどの希少動物の宝庫であるやんばるの原風景を、各所で展示される海外・日本・県内のアーティスト(西野達、横山裕一、椿昇、ニック・クリステンセン、永澤嘉務、淀川テクニックほか)による現代アートと沖縄の伝統工芸を通して体感できる。

☎ 沖縄本島北部地域(大宜味村、名護市、本部町、国頭村ほか) ☎ やんばるアートフェスティバル実行委員会(よしもとエンタテインメント沖縄内)

Tel. 098-861-5141

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示しているのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 児島・三田

●2020年2月号情報締切

2019年12月23日(月)

●2020年2月号掲載対象情報

2020年2月～4月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

◎公共ホール等の求人情報

◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。
<http://www.jafra.or.jp/>

北海道・東北

●北海道帯広市

北海道立帯広美術館

〒080-0846 帯広市緑ヶ丘2番地

Tel. 0155-22-6963 野田佳奈子

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/obj/>

網走市立美術館コレクション選

居串佳一とオホーツクの画家たち

北海道東部に位置する北海道立帯広美術館と網走市立美術館の連携企画。網走市立美術館のコレクションを活用し、北海道をモチーフにした絵画制作を行った画家・居串佳一(1911～55)の代表作を中心に、居串の作風の変遷を概観する。また居串が暮らしたオホーツク地方ゆかりの画家の作品も併せて展示することで、その魅力を再発見する。

[日程]12月14日～2020年3月15日

[会場]北海道立帯広美術館

●青森県十和田市

十和田市現代美術館

〒034-0082 十和田市西二番町10-9

Tel. 0176-20-1127 大谷紗絵

<http://towadaartcenter.com/>

AKI INOMATA : Significant

Otherness 生きものと私が出

会うとき

生物の観察と調査を通して独創的な作品をつくり出す美術家AKI INOMATAの、国内美術館初の個展。ヤドカリに3Dプリンターで制作した各国の都市を模した殻に住み替えてもらう《やどかりに「やど」をわたしてみる》や、小さく刻んだ女性の衣服をミノムシに纏ってもらう作品などが出品される。いずれの作品も、人間とは違う生きものの視点から世界を表現することで、人間や社会の本質をユーモアある表現で問いかける。

[日程]9月14日～2020年1月13日

[会場]十和田市現代美術館

●岩手県盛岡市

盛岡文士劇公演実行委員会

〒020-0873 盛岡市松尾町3-1

(盛岡劇場内)

Tel. 019-622-2258 船越英恵

<http://www.mfca.jp/morigeki/>

令和元年度 盛岡文士劇

今回で25回目となる盛岡初冬の風物詩。第一部では地元放送局のアナウンサーを中心とした盛岡弁の現代劇を上演。方言を取り入れることで盛岡ならではの劇にするとともに、盛岡弁を伝え残していこうという想いがある。実行委員会による口上の後、う作家など文士を中心に各界で活躍している人々が出演する時代劇を上演する。

[日程]11月30日～12月1日

[会場]盛岡劇場



平成30年度 盛岡文士劇 時代物「柳は萌ゆる」

●宮城県名取市

名取市文化振興財団

〒981-1224 名取市増田字柳田520

Tel. 022-384-8900 海野広美

<http://bunka.natori.or.jp/>

須川展也プロデュースプロジェクト

トルヴェール・クワルテット

リサイタル

日本が世界に誇るサクソ奏者・須川展也によるプロデュース企画の一環で、サクソフォン四重奏団「トルヴェール・クワルテット」(須川、彦坂眞一郎、神保 佳祐、田中靖人)によるコンサートのほか、愛好家向けのマスタークラスを開講し、コンサートでは受講者との共演のステージを用意。また、学校や公民館でのアウトリーチも実施し、市民

との交流を図る。

[日程]12月8日

[会場]名取市文化会館

●宮城県塩竈市

塩竈市杉村惇美術館

〒985-0052 塩竈市本町8-1

Tel. 022-362-2555 阿部沙斗加

<http://sugimurajun.shiomo.jp/>

杉村惇作品展 存在と空間の

伝説 ～画室の韻律～

今年5周年を迎えた同館が開館時から取り組む特別企画展。今年は、塩竈時代に確立されたとされる静物画のスタイルに欠かさないマリオンネットやランプ、グラスなどのモチーフに焦点を当て、「静物学者」とも称される杉村の作品世界を紹介する。関連イベントとして、静物画を題材としたフラワーアレンジメントや杉村作品を想起させる絵肌をつくるワークショップを実施。

[日程]11月23日～2020年1月19日

[会場]塩竈市杉村惇美術館

●秋田県鹿角市

鹿角市教育委員会生涯学習課

〒018-5292 鹿角市花輪字荒田4-1

Tel. 0186-30-0294 藤原美恵子

https://www.city.kazuno.akita.jp/kanko_bunka_sports/bunkazai/5707.html

鹿角市民俗芸能フェスティバル

～風流 秋田の盆踊り～

無形民俗文化財の「保存と伝承」「後継者の確保と育成」に繋がる活動の一環として、市が毎年開催するフェスティバル。テーマごとに無形民俗文化財の上演を行い、その価値と魅力を発信している。今年は鹿角市から「毛馬内の盆踊」「花輪の町踊り」、市外から「西馬音内盆踊」「一日市盆踊」といった秋田の盆踊りが一堂に会し、各地の特色ある踊りの所作や衣装などが見どころ。

[日程]12月1日

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

[会場] 鹿角市文化の杜交流館
コモッセ

●山形県庄内町

響ホール事業推進協議会
〒999-7781 東田川郡庄内町
余目字仲谷地280
Tel. 0234-45-1433 岡田勇弥
<https://www.hibikihall.jp/>

開館20周年記念事業 多くのいのちを救った—佐藤幸徳中將物語—「インパールの空のもと」
多くの日本兵士の命を救うことになった日本陸軍初の命令拒否事件のエピソードを元に、庄内町出身の軍人「佐藤幸徳」を描いた町民参加の創作舞台。町に保管されている資料の提供や、佐藤の親族への聞き取りなど、作者の執筆にホールが全面協力。歴史に名を残す地元の偉人を若い世代の人たちにも再認識してもらいたいとの願いも込める。
[日程] 12月6日、7日
[会場] 庄内町文化創造館響ホール

●山形県酒田市

酒田市役所
〒998-8540 酒田市本町2-2-45
Tel. 0234-24-2982 小松千佳
<http://www.city.sakata.lg.jp/bunka/geijyutsu/index.html>

若竹ミュージカル『屋根の上のヴァイオリン弾き』酒田公演
令和元年度障害者生涯学習支援活動の部において文部科学大臣表彰の受賞が決定した、東京学芸大学附属特別支援学校の卒業生と支援者でつくる若竹ミュージカルが、ソリストにプロの声楽家・工藤和真を迎え、酒田公演を開催。酒田特別支援学校高等部の生徒も出演する。ステージのエネルギーが客席と一体になる若竹ミュージカルならではの『屋根の上のヴァイオリン弾き』を楽しめる。
[日程] 12月1日
[会場] 酒田市民会館希望ホール

●福島県郡山市

郡山市立美術館
〒963-0666 郡山市安原町字大谷地130-2
Tel. 024-956-2200 佐藤秀彦
<https://www.city.koriyama.lg.jp/bijutsukan>

クリストファー・ドレッサーと正倉院宝物
1876年に来日し、正倉院に入館することを初めて許された西洋人であるイギリスの装飾デザイナー、クリストファー・ドレッサー(1834～1904)。会場では、モダン・デザインの先駆者として位置づけられているドレッサーの作品や明治初期の輸出工芸品、正倉院宝物の模造復元品など140点を展示し、明治の殖産興業と文化財保護政策に大きく寄与したドレッサーの業績を紹介する。
[日程] 11月16日～2020年1月26日
[会場] 郡山市立美術館

関東

●群馬県前橋市

アーツ前橋
〒371-0022 前橋市千代田町5-1-16
Tel. 027-230-1144 今井朋
<http://artsmaebashi.jp/>

表現の生態系 世界との関係をつくりかえる
アートが社会における“生きづらさ”に対して表現のもつ可能性を考える。福祉、教育、医療などの分野と協働して行う「表現の森」プロジェクト(2016～)の蓄積を展示するほか、県内のLGBTQ支援団体と協働したプロジェクトや、地域の風土、信仰、精神性などをキーワードに国内外の作家31組を紹介。展覧会テーマに合わせ福祉施設勤務者等を鑑賞無料にするなどの工夫もされている。
[日程] 10月12日～2020年1月13日
[会場] アーツ前橋

●さいたま市

さいたま市文化振興事業団
〒336-0024 さいたま市南区根岸1-7-1
Tel. 048-866-4600 青木美帆
<http://www.saitama-culture.jp/>

歌ってさいたま! 立川談慶&沢田知可子&INSPi—ことば・うた・らくご。声がつながる不思議な世界。
“声がつながる”をテーマにした、落語+うた+アカペラのオリジナル企画。さいたま市ゆかりのアーティスト、立川談慶(落語)、沢田知可子(歌)、INSPi(アカペラ)と市民ゲストが各ジャンルを単独&ミックスさせたステージを繰り広げる。開催はさいたま市文化センターの再オープン日、新たに制作されたテーマソング「歌ってさいたま」を、会場全体で歌って祝う。
[日程] 12月1日
[会場] さいたま市文化センター

●千葉県佐倉市

佐倉市立美術館
〒285-0023 佐倉市新町210
Tel. 043-485-7851 黒川公二
<https://www.city.sakura.lg.jp/sakura/museum/>

小林ドンゲ展 ファム・ファタル(妖婦)
戦後日本を代表する女流銅版画作家・小林ドンゲ(1926～)の作品展。彼女は美しい線へのこだわりから、最も古典的な技法の一つ「エングレーヴィング」により独自の世界観を確立。大変高難度の同技法で成功した作家は今日では希少だと言われている。初期～近作の作品とその下絵、原



《散る花》(1985年/銅版画)

版など約160点を展示し、作家が人生を通して追求してきた銅版画表現の魅力を伝える。
[日程] 11月2日～12月22日
[会場] 佐倉市立美術館

●横浜市

横浜美術館
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1
Tel. 045-221-0300 坂本恭子
<https://yokohama.art.museum/>

横浜美術館コレクション展「東西交流160年の諸相」
開館30周年と横浜開港160周年を記念し、コレクションの大きな柱でもある「東西交流」をテーマに開催。開港期から第二次世界大戦後に至る長い時間で実現した「東」と「西」の文化の交わりを、いくつかのトピックで紹介。新収蔵品を多数含めた「横浜浮世絵」や「明治写真」などの開港期の特集展示を織り込むことで、「開港」を見つめ直す機会とする。
[日程] 9月21日～2020年1月13日
[会場] 横浜美術館

●神奈川県横須賀市

横須賀美術館
〒239-0813 横須賀市鴨居4-1
Tel. 046-845-1212 日野原清水
<http://www.yokosuka-moa.jp/>

見る、知る、学ぶ、作る 版画ワンダーワールド
版画特有の制作過程である彫り(版製作)と摺り(印刷)に注目することで、版画表現の豊かさと多様性を改めて紹介する企画展。19世紀の作品から現代の身の周りにも使われている作品まで、木版や石版などさまざまな作品により版画の技法を紹介する。関連事業ではアーティストトークや木版作画作成ワークショップを行い、観覧者の理解を深めることを目指す。
[日程] 11月16日～12月22日
[会場] 横須賀美術館

北陸・中部

●富山県富山市

富山県水墨美術館

〒930-0887 富山市五福777

Tel. 076-431-3719 若松基

<http://www.pref.toyama.jp/branches/3044/3044.htm>

レボリューション

墨画×革命 戦後日本画の新たな地平

近代以降の水墨画を中心に紹介してきた水墨美術館の開館20周年を記念し、戦後における日本画の中での墨画の性格、水墨画の伝統の受容/変容の状況を、横山操や東山魁夷、加山又造ら16名の画家たちの群像によって紹介する。

[日程]11月15日～2020年1月13日

[会場]富山県水墨美術館

●富山県黒部市

黒部市美術館

〒938-0041 黒部市堀切1035

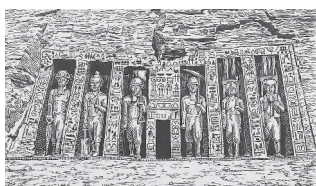
Tel. 0765-52-5011 尺戸智佳子

<https://www.city.kurobe.toyama.jp/category/page.aspx?servno=79>

風間サチコ展

ーコンクリート組曲ー

黒一色の木版画を主とする風間サチコ。本展では、コンクリートという土木技術の発展で人間が神のように自然をデザインするようになったことを、建設による近代的な「新秩序」ととらえてテーマとして扱う。黒部川の開発に着目した《クロベゴルト》や、黒部川第三発電所建設を支えた労働者たちに焦点を当てた《ゲートピアno.3》など、本展に合わせてリサーチを行った新作を展示する。



《ゲートピアno.3》(部分)(2019年/木版画(和紙、油性インク、パネル、額、版木)/60.5×91.5cm) 撮影:柳原良平

[日程]10月12日～12月22日

[会場]黒部市美術館

●山梨県甲府市

YCC県民文化ホール

〒400-0033 甲府市寿町26-1

Tel. 055-228-9131 長田真実

<https://www.yamanashi-kbh.jp/>

YCC県民文化ホール・アーティスト・アドバイザー・真嶋雄大による音楽劇シリーズVol.2 「音楽劇ショパンは好き?それともシューマン?」

アーティスト・アドバイザーを務める音楽評論家・真嶋雄大のプロデュースによる音楽劇シリーズの第2弾。今回はショパン、シューマンに焦点を当てる。ふたりのほか、シューマン夫人のクララやブラームスたちが登場する朗読劇により、当時の時代背景や作曲家の心情をわかりやすく伝えるだけでなく、彼らが遺した名曲の生演奏で、19世紀ヨーロッパの華麗な音楽の世界に浸ることができる。

[日程]12月8日

[会場]YCC県民文化ホール(山梨県立県民文化ホール)

●岐阜県岐阜市

岐阜県美術館

〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22

Tel. 058-271-1313 鳥羽都子

<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/>

セカンド・フラッシュ

昨年11月から1年間のリニューアル休館中に、図書館や盲学校などで実施したアートプロジェクトやアーティスト・イン・レジデンスに参加した4組の若手アーティストによる成果展。サイトスペシフィックな内容をどのように美術館で表現するかが注目される。また、リニューアルオープンを記念したコレクション展や美術教育に焦点を当てた展示も同時に開催。

[日程]11月3日～2020年1月5日

[会場]岐阜県美術館

●静岡市

静岡芸術劇場(SPAC-静岡県舞台芸術センター)

〒422-8019 静岡市駿河区東

静岡2-3-1(グランシップ内)

Tel. 054-203-5730 中尾栄治

<https://spac.or.jp/>

SPAC秋→春のシーズン #3

RITA & RICO (リタとリコ)

～『セチュアンの善人より』～

SPACの個性派俳優・渡辺敬彦が、ブレヒトの寓話劇『セチュアンの善人』を大胆にリライト。関連企画では「はじめての演劇鑑賞講座」や婚活企画、バックステージツアーのほか、作品の創作中の様子を無料で見られる「おためし劇場」も実施し、普段あまり劇場を訪れたことのない人が劇場と出会う場を提供する。また、県内の中高生を対象に招待公演を行う事業「SPACeSHIPげきとも!」の一環にもなっている。

[日程]12月12日～22日

[会場]静岡芸術劇場



昨シーズンのSPAC公演『歯車』で開催された「おためし劇場」の様子(演出の多田淳之介がレクチャー) 写真提供:SPAC

●名古屋市

名古屋市文化振興事業団

〒460-0008 名古屋市中区栄

3-18-1 ナディアパーク8F

Tel. 052-249-9385 後藤初美

<https://www.bunka758.or.jp/>

子どもアート万博2019

世界各国の文化・芸術を体験できる子どものためのイベント。3年目を迎える今年は、過去2回で好評だったパフォーマンスやワークショップを中心に展開。メインプログラムとして、クラシックバレエの名作『くるみ割り人形』を

ダイジェスト版でわかりやすく上演するほか、各国の民俗舞踊や音楽を気軽に鑑賞できるステージやワークショップも開催する。

[日程]12月21日、22日

[会場]ナディアパーク

近畿

●三重県津市

三重県文化会館

〒514-0061 津市一身田上津部田1234

Tel. 059-233-1100 南谷雄司

<https://www.center-mie.or.jp/bunka/>

inseparable『変半身(かわりみ)』

「inseparable」とは、劇作家・演出家の松井周と小説家の村田沙耶香が共同原案を基に、演劇と小説をそれぞれに発表するプロジェクト名で「切っても切れない」の意。2017年に始動し、取材旅行や合宿を重ねて共同原案を立ち上げた。11月下旬に村田の小説版『変半身』が刊行され、11月末から12月にかけては松井作・演出の舞台版『変半身』が東京・三重・京都・神戸で上演される。

[日程]12月14日、15日

[会場]三重県文化会館

●京都市

ロームシアター京都

〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13

Tel. 075-771-6051 寺田貴美子

<https://rohmtheatrekyoto.jp/>

ロームシアター京都×京都芸術

センター U35創造支援プログラム

“KIPPU” お寿司 ボロレスコ

『菠薐心中(ハローしんじゅう)』

若手アーティストの発掘と育成を目的に、ロームシアター京都と京都芸術センターが協働して行う公募制の創造支援プログラム。2年目の今年は2組を選出。そのうち、衣装作家の南野詩恵が主宰する舞台芸術団体「お寿司」が、曽根崎心中を下敷きに、

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

現代における心中を探る演劇を上演。特に文楽人形をアイデアソースにした演出に注目。

[日程] 12月11日～13日

[会場] ロームシアター京都

中国・四国

●岡山県真庭市、美作市、鏡野町

岡山県文化振興課

〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6

Tel. 086-226-7903 丁田崇光

<http://www.pref.okayama.jp/site/art/>

美作三湯芸術温度

西日本有数の温泉地「美作三湯」を舞台とした回遊型アートイベント。県内外のアーティスト24名が、温泉地や温泉宿ならではの作品を制作し、展示を行う。リラックスした雰囲気の中、おしゃべりをしたり写真を撮ったりと自由にアートを楽しめる。展示会場を回って集めるスタンプラリーで、もれなく作品集がもらえるほか、お得な観光キャンペーンも実施。

[日程] 10月5日～2020年1月13日

[会場] 美作三湯(湯原、奥津、湯郷)地域の温泉宿など25カ所



松岡徹「はんだきさん湯冷め姿」(ゆばら湯 湯郷温泉)

●徳島県阿南市

阿南市文化会館

〒774-0030 阿南市富岡町西池田135-1

Tel. 0884-21-0808 加藤十

<http://yumecosmo.jp/yume/>

劇団夢創 第20回公演『メモリーサトバあちゃん86歳の忘れもの』

平成11年の阿南市文化会館オープンを機に市民劇団として

誕生した「劇団夢創(ゆめつくり)」が、文化会館開館20周年と劇団結成20周年の記念ミュージカルを上演する。小学生から大人まで総勢30人を超える市民キャストがつくる涙と笑いのコメディ作品。認知症になったおばあちゃんの記憶を子どもたちが追体験する内容で、踊りや歌も交えたすべての世代が楽しめる作品となっている。

[日程] 12月21日、22日

[会場] 阿南市文化会館

●高知県高知市

オーテピア高知図書館

〒780-0842 高知市追手筋2-1-1

Tel. 088-823-4946 田原葉

<https://otepia.kochi.jp/library/>

高知市民図書館開館70周年記念展「歴史の森—記憶の中を触る人—」

開館当時、博物館がなかった高知県で唯一の受け皿として、歴史的、美術的に価値の高い資料を保管してきた同館が、これまでの取り組みを紹介する記念展。70年にわたり「特設文庫」として整理・保管してきた図書や古文書など高知ゆかりの資料を展示するほか、データベースを使った関連企画を行うなど、近年進めている「活用」の取り組みについても紹介する。

[日程] 前期:9月25日～11月4日、後期:11月9日～12月25日

[会場] オーテピア高知図書館

九州・沖縄

●福岡市

福岡市文化芸術振興財団

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル8F

Tel. 092-263-6265 菅原力

<http://www.ffac.or.jp/ff>

フィンランド×日本 現代サーカス交流プロジェクト『Air/エアー』

フィンランドとの外交樹立100周年を記念したプロジェクト。現代サーカスが盛んなフィンランドのイローナ・ヤンティ(エアリアル)が数週間の滞在制作を行い、新作舞台を上演する。福岡が発祥の地といわれる筑前琵琶、タイや韓国の伝統楽器による音楽とのコラボレーションに挑戦するなど、古くからアジアとの交流が盛んだった福岡ならではの舞台となる。

[日程] 11月30日、12月1日

[会場] なみきホール

●福岡県久留米市

久留米シティプラザ

〒830-0031 久留米市六ツ門町8-1

Tel. 0942-36-3000 森永南海子

<http://kurumecityplaza.jp>

Quatuor B(クワチュール・ベール)が贈る 3歳からの「はじまりの音楽会」

子どもの感性・創造力を育てる事業として、今年の夏から取り組むキッズプログラム。第1弾の演劇に続く第2弾として、サクソフォーン四重奏のQuatuor B(クワチュール・ベール)によるコンサートを開催する。演奏中の手元を大きなスクリーンに映して見せる演出や、耳なじみのあるクラシック、映画音楽、ポップスなど幅広い選曲で、子どもも大人も一緒に楽しめる企画を予定。

[日程] 2020年1月5日

[会場] 久留米シティプラザ

●熊本県小国町

坂本善三美術館

〒869-2502 阿蘇郡小国町黒瀬2877

Tel. 0967-46-5732 山下弘子

<https://sakamotozenzo.com>

坂崎隆一展 裏を返せば

鑑賞者とのコミュニケーションをテーマとした作品・作家を紹介してきたシリーズ「アートの風」。第

9回の今回は、コンセプチュアルな作品で知られる一方、学校や地域コミュニティとの協働も多数あるアーティスト坂崎隆一の独自の視点を提示する。美術館でのインスタレーション作品等の展示のほか、坂崎が一日体験入学した小国高校の生徒の作品を坂崎キュレーションで町内各所に展示する二本立てで行う。

[日程] 11月15日～2020年1月19日

[会場] 坂本善三美術館、小国町内各所



熊本県立小国高校の壁画「大切なもののかたち」制作の様子。右にあるのは坂崎隆一の等身大ポップ

●大分県大分市

iichiko総合文化センター・おおいの障がい者芸術文化支援センター

〒870-0029 大分市高砂町2-23

Tel. 097-533-4004 八坂千景

<http://www.emo.or.jp/>

音楽と科学レクチャー #4 視覚・聴覚障がいの方と楽しむ～“音をみる・音をさく・音をさわる”コンサート

聴覚や視覚に障がいがある人も楽しめる舞台芸術を考える企画。コンサートは和太鼓(レナード衛藤)とダンス(森下真樹)のコラボレーションステージ。振動を肌で感じたり、ダンサーの息づかいや音の移動で動きを感じるなど、五感をフルに使ってさまざまな鑑賞の仕方が楽しめる。コンサートの前後のトークでは、この取り組みや鑑賞者のコンサート体験がどんなものだったか共有し考える。

[日程] 12月1日

[会場] iichiko総合文化センター

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

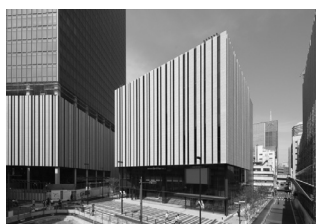
地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp

●東京都豊島区

豊島区立芸術文化劇場 (東京建物 Brillia HALL)

〒170-0013 豊島区東池袋1-19-1
Tel. 03-5924-6611(劇場運営課)
<https://toshima-theatre.jp/>

◎2019年11月1日オープン



大型複合施設「Hareza池袋」(2020年7月グランドオープン)の中核を成す劇場として、また文化創造都市づくりを目標に掲げた「豊島区国際アート・カルチャー都市構想」のシンボルとして開館。

ホール外観は新潟県十日町市のブナ林「美人林」の立ち姿からアイデアを得たデザインで、縦方向の細いラインが特徴。ホール内側は、立ち木をイメージした外壁の間から日が差し込み、木陰のような空間が広がる。

ミュージカルや大型商業演劇などの長期利用を中心に、成人式をはじめ区民向け行事など幅広いニーズに対応し、舞台から最も距離のある3階客席最後方までが同クラスのホールの中でも最短で、見やすく高い臨場感が味わえる造りになっている。

2020年9月まで「こけら落としシリーズ」としてさまざまなジャンルの公演が実施される予定。

[オープニング事業] INNOVATION OPERA『ストウパー〜新卒塔婆小町〜』ほか

[施設概要] ホール(1,300席)、小楽屋3室、中楽屋5室ほか

[設置者] 豊島区

[管理・運営者] 公益財団法人としま未来文化財団

[設計者] 鹿島建設株式会社一級建築士事務所

●愛媛県四国中央市

しこちゅ〜ホール (四国中央市市民文化ホール)

〒799-0113 四国中央市妻鳥町1830-1

Tel. 0896-59-4510

<https://shikochuhall.jp/>

◎2019年8月23日オープン



老朽化した川之江会館と三島会館を継ぐ統合施設として、四国の交通の要衝といった立地と産業都市という特性をいかし、産業と文化を融合した交流拠点となることを目指して整備。地元のNPO法人を指定管理者に選定し、市民から親しまれ、愛される、地域密着型の運営を目指す。

市で盛んな紙産業にちなみ、おりがみの折目目をモチーフにした大ホールは、プロセニウム型の舞台と高い音響性能を備えながら、2階客席後方から舞台までの距離が近く一体感のあるつくりとなっている。小ホールは可動式機構により展示会やリハーサルなど多目的に使用できる。これまでの施設では実現が難しかった大型の鑑賞型事業のほか、普及・育成型、市民参加型事業を展開していく。

[オープニング事業] 仲道郁代ピアノ・リサイタル、合唱団・小中学校吹奏楽演奏ほか

[施設概要] 大ホール〜おりがみ〜(最大1,007席)、小ホール〜かるた〜(最大212席)、会議室、展示室、みどりの広場ほか

[設置者] 四国中央市

[管理・運営者] NPO法人四国中央市公共施設管理運営センター

[設計者] 株式会社あい設計

●鹿児島県阿久根市

阿久根市民交流センター (風テラスあぐね)

〒899-1628 阿久根市塩鶴町2-2
Tel. 0996-72-1051

<http://www.city.akune.kagoshima.jp/kurashitetsuzuki/shisetsu/koryucenter.html>

◎2018年11月1日オープン



前身の阿久根市民会館の老朽化や耐震強度不足により代替施設として開館。建設にあたって、設計者と市民グループとのワークショップが行われ、これまでの文化芸術・生涯学習の活動拠点としての役割に、交流・にぎわい拠点としての機能が加わったほか、気軽に集まれる場所がほしいという要望もあり、ロビー空間が新たに設けられた。

自然光を取り入れたホールは、季節感や時刻感を感じられ、舞台後方の壁を開放するとロビーと連続した広々一体空間となるのが特徴的。舞台を利用しなくても多用途で活用できるように工夫され、市が継続的に実施してきた「あぐね洋画展」の展示会場としての使用も想定している。また、音の響きにも考慮したワンボックス型で、九州初のファツィオリのピアノを設置していることもあり、今後は自主事業でクラシック音楽にも注力していく予定。

[オープニング事業] 映画「かぞくいろ」先行上映会・舞台挨拶、富貴晴美トーク&コンサートほか

[施設概要] ホール(541席)、交流室兼会議室5室

[設置・管理・運営者] 阿久根市

[設計者] 有限会社ナスカ

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●「市町村長特別セミナー」に関する問い合わせ
芸術環境部 仕田・佐藤
Tel. 03-5573-4078

●2020・2021年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」登録アーティスト
●齊藤一也(ピアノ)
●石上真由子(ヴァイオリン)
●梅津 碧(ソプラノ)
●竹多倫子(ソプラノ)
●新野将之(打楽器)
●實川風・高橋ドレミ(ピアノデュオ)

●「公共ホール音楽活性化事業」に関する問い合わせ
芸術環境部 永田
Tel. 03-5573-4069

●市町村長特別セミナー「地域経営塾」終了報告

地域創造では、文化・芸術による地域づくりへの理解を深めていただくため、年2回全国の市町村長を対象とする「市町村長特別セミナー」を実施しています。今年度の2回目は、滋賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所(JIAM)との共催で10月31日と11月1日の2日間開催されました。その1日目に、文化・芸術によるまちづくりに関する講義と音楽アウトリーチを模擬体験していただくミニコンサートを実施しました。

講義は「地域文化・スポーツ振興によるまちづくりへの挑戦」と題し、長野県上田市前市長の母袋創一さんが登壇。母袋さんは、バブル経済崩壊からリーマンショックを経て、これからの地方の発展に欠かせない人づくり、まちづくりの取り組みは教育委員会ではなく首長部局が牽引すべきだと考えるようになったと言います。同市における挑戦のひとつがスポーツ行政。「スポーツ基本法」(2011年制定)も追い風に、近隣都市と高地トレーニングの連携や「合宿の聖地」菅平高原へのナショナルチームの誘致などを通じた地域活性化の取り組みが紹介されました。

文化行政への挑戦では、地域創造の機関誌をきっかけに欧州の創造都市の事例からも学び、それらは上田市交流文化芸術センター サントミューゼの開館(2014年)に結実しました。ひと・まち・文化の「育成」を基本理念とし、特色ある自主企画事業の成果が着実に見えてきており、利用者の総合的満足度から経済波及効果、パブリシティ効果等を踏まえ「文化政策への投資が大きなリターンとなって社会に還元される」という母袋さんの言葉は、確かなものとして響きました。

講義に続いて、ヴァイオリニストの北島佳奈さん(地域創造おんかつ支援登録アーティスト)、ピアニストの湯川美佳さんによるミニコンサートが行われました。アウトリーチ経験の豊富な北島さんは多彩な曲目とともに、ヴァイオリンを始めた頃に使った10分の1サイズの楽器も披露し、アウトリーチでは子どもたちへのメッセージとして自分の好きなことを続ける喜びを忘れないでほしいと伝えていることを紹介。セミナー受講者をはじめ約50名の参加者と音楽による温かい交流が生まれた模擬アウトリーチ体験となりました。



上:北島佳奈さん、湯川美佳さんによるミニコンサート
下:上田市前市長・母袋創一さんによる講義

●2020・2021年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」新規登録アーティスト集合研修報告

2020・2021年度の公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)登録アーティスト6組7名の集合研修を、10月8日、9日の2日間にわたり当財団事務所に開催しました。

初日はまず、劇作家・演出家でリージョナルシアター事業アドバイザーの岩崎正裕さん(劇団太陽族代表)によるワークショップを行いました。アーティストたちは自分たちの緊張をほぐしてお互いの距離を縮めただけでなく、芸術分野のアウトリーチには、参加者の協調性や想像力を育む効果があることを学びました。

OBアーティストからの講座では「アウト

リーチの魅力と苦労」「演奏家として求められるスキル」などをテーマに、ヴァイオリニストの神谷未穂さん、ピアニストの新居由佳梨さんからお話をいただきました。地域の方々との距離を縮めるために地元の催しに参加したという体験談や、ホール担当者や地域の方々と一緒につくる事業だと理解することが大切といった話など、OBアーティストならではの生の声を聞くことができました。

今回の研修と2020年1月～2月にかけて行われる実地研修を経て、新規登録アーティストたちはさまざまな地域に寄り添うこ

とができるプログラムを検討します。来年度からの7名の活躍にご期待ください。



神谷未穂さん(ヴァイオリン)、新居由佳梨さん(ピアノ)によるゼミ④「おんかつ事業について」

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

石川県金沢市

金沢21世紀美術館 市民美術の日 「オープンまるびい 2019」



上：市民専用カウンターの前は長蛇の列
下：「現在地：未来の地図を描くために」展で
展示されているクリスマス・バーデン《メトロポリス》

● 金沢21世紀美術館

2004年10月9日開館。金沢城公園の周辺に立地していた石川県庁、金沢大学が移転し、空洞化が懸念されたことから、一帯を「広坂芸術街」としてまちの賑わいと新しい文化の創造を目的に構想。元金沢大学付属小中学校跡地に、妹島和世＋西沢立衛／SANAAの設計により外壁がガラス張りの円筒型（直径113m）のユニークな建物が誕生（愛称：まるびい）。有料展示室は円筒形の中心部、周辺のドーナツ部分は無料のブリックエリア。天井に正方形の窓を開け空の移ろいを体験するジェームズ・タレル、傾斜した壁にブラックホールを出現させるアニッシュ・カプア、プールの水面下に人が入れるレアンドロ・エルリッヒなど、建築にあらかじり組み込まれた有名なコミッションワークで金沢の一大観光スポットに。

*1「高校生限定・劇的！バスツアー」
今年度初めて観客育成のためのパイロット事業として企画。SCOT（富山県立賀芸術公園）、コンドルズ（兵庫県立芸術文化センター）、Noism1（リョーとびあ新潟市民芸術文化会館）の公演観劇＋舞台裏見学＋車中トーク。高速バス・鑑賞券無料。定員30人。

*2「自治区」
やりたいことができる自立した場所をつくるプロジェクト。そのひとつとして金石太野地区に古い物置を改修したスタジオを開設。地域住民とアーティストが出会い、庭づくり、パーティー、ワークショップなどさまざまな活動を展開中。

金沢21世紀美術館（以下、21美）が2004年に開館して15周年を迎えた。同館は、金沢市の繁華街、香林坊から徒歩10分圏内、年間300万人近い入園者の兼六園に隣接。こうした中心地であることも幸いし、日本の地域美術館としては異例の年間250万人の入館者数を誇る。一概に比較できないが、ルーブル美術館が年間約1,000万人、上野の国立西洋美術館が約150万人だから、21美の入館者数がいかに多いかわかる。この集客力で注目されることが多いが、実は21美には開館当初から市民と交流してきたもうひとつの顔がある。その姿を取材するため、新しく「市民美術の日」に指定された11月3日の「オープンまるびい2019」を取材した。

この日は、市民がアートを楽しみ、まるびいに親しむ日として制定されたものだ。広場は飲食の出店やパフォーマンスが行われる「まるびい Art-Complex」で賑わい、15周年記念展「現在地：未来の地図を描くために」が無料になるほか、20時までの夜間開館、無料シャトルバスの運行、ガラスの外壁へのペインティングなどさまざまな取り組みが行われていた。

普段は観光客の長蛇の列で入場もままならない市民のために、特設専用カウンターを設置。ストック素材で出来た巨大な繭のような空間に包まれるエルネスト・ネト、おもちゃのパーツや金属のレールでつくられたまちをミニカーが轟音で疾走するクリスマス・バーデン、回収した銃を楽器にしたペドロ・レイエス、昆虫でドレスを仕立てたヤン・ファールなどのコレクションから最先端のバイオアートまでを、大人や子どもなど多くの市民が堪能。それをこの日は総勢50人ほどのボランティアが支えていた。

面白かったのは、市民向けに行われたギャラリートークだ。交流課のエducーター、展覧会を企画した学芸員、美術館の記録を担当するアーキビスト、保存修復にあたるコンサバターがそれぞれの取り組みや思いを話しながら館内や作品を案内。まさに21美をまるごと体験できる1日になっていた。

こうした「市民美術の日」をはじめ、21美には

市民と美術館の交流と関係づくりを図るユニークなプログラムがたくさんある。展覧会以外のこうしたプログラムを4、5年前に整理し、「生涯学習基盤整備事業」（キッズスタジオ・プログラム、ミュージアム・クルーズ、中学校美術部対象のまるびいアートスクール、高校生限定・劇的！バスツアー^{（*1）}、ボランティア事業など）と「地域文化活性化支援事業」（ダンス・演劇・音楽・映画・講座事業および共催事業、こども映画教室、オープンまるびい、まるびい Art-Complex、自治区^{（*2）}など）に位置づけて展開している。

1999年の開館準備から携わり、オープニングで市内全小中学生4万人を美術館に招待する「ミュージアム・クルーズ・プロジェクト」（06年から全小学4年生を招待）を手掛けた黒澤伸副館長は次のように話す。

「この美術館は、伝統文化の根強い金沢でイノベーションを興すためには現代美術館のような新しい文化が必要だと構想された。しかし、現代美術では集客が見込めないからと芸術交流館と一体で計画された。そのため当初から市民とのさまざまな交流を図るほか、兼六園から人の流れを引き込む仕掛けをつくってきたが、当初目標の30万人をはるかに超える観光客が訪れるようになり、市民には行きづらい施設になってしまった。まだ実現できていない芸術交流館としてのミッションを遂行するため、市民と直接具体的に繋がるやり方を始めた。そのひとつが出店やパフォーマンスをやりたい市民を募集してまちの広場をみんなで作る毎週末のArt-Complexだ。美術史家のダンカン・キャメロンが1970年代に『フォーラムとしてのミュージアム』（未知のものと出会い、議論が始まる場所）について指摘したが、まだそれが実現したとは言えない。ここがいろいろな人が交流する文化の結節点になればと思っている」

ミュージアム・クルーズにより、9歳から28歳までの金沢市民はほぼ全員この美術館に来た計算になる。現代美術がもつ新しい価値を生み出そうとするイノベーションの息吹に触れたこの新市民たちこそ、無限の可能性を秘めた21美のもうひとつの顔なのと思った。（坪池栄子）